



## ◆◆◆ 江ヶ崎地区の年齢別人口の比較 ◆◆◆

地区別人口については、集計上の誤差があり、実態と一致しない場合があります。

出典：横浜市統計ポータルサイト

	0~14歳	15歳~64歳	65歳以上	総人口	高齢化率
現在 (H30-3-31)	1,601人	4,688人	848人	7,137人	11.9% (区平均 21.0%)
5年前 (H25-3-31)	1,486人	4,270人	675人	6,431人	10.5%

(高齢化率=65歳以上人口 / 総人口)

### あらためて「江ヶ崎地区社協福祉協議会」(通称：江ヶ崎社協)とは？

#### ① 社会福祉協議会(略称：社協(しゃきょう))とは？

社協は全国組織です。全国社協→横浜市社協【市社協】→鶴見区社協【区社協】→江ヶ崎地区社協【地区社協】と、大地域から小地域へと段階的、系統的に設置されています。

横浜市内の地区社協は、おおむね連合町内会を単位として組織されています。江ヶ崎地区社協のような「同じ町内に江ヶ崎町内会と江ヶ崎地区社協がある」のは、とてもめずらしいケースです。

#### ② 鶴見区には、いくつ地区社協があるの？

鶴見区自治連合会単位のもの17と、町単位の江ヶ崎地区社協の合計18社協です。

それぞれの地区で、広報紙の発行・子育て支援・高齢者食事会・高齢者サロン・福祉保健講座などを行っています。

#### ③ 江ヶ崎地区社協(略称：江ヶ崎社協(えがさきしゃきょう))はいつ生まれたの？

平成10年、江ヶ崎町内会は矢向地区連合町内会を退会しました。

それとともない平成12年、新たに江ヶ崎町社会福祉協議会が結成され、平成21年に鶴見区内18番目の「地区社協」として、正式承認されました。

平成27年、会則を改正し「江ヶ崎町社協」から「江ヶ崎地区社協」に名称変更しました。「小地域でのきめの細かい福祉」をめざして18年が経ちました。

#### ④ どのような人たちが構成されているの？

町内会の役員や、民生委員・児童委員、保護司、老人クラブ、青少年指導委員、保健推進委員、「いちりんの会」など地域ボランティア、福祉施設など、さまざまな人たちによって構成されています。

#### ⑤ 活動の財源は、どこから出ているの？(平成30年度実績)

主たる財源	金額
*地区社協活動費(市社協補助金)	50,000円
*区社協世帯会費還元(世帯数1,920×@15円)	28,800円
*共同募金還元金(H29年度実績595,200円×15%)	89,400円
*区社協事業上乗せ補助金	190,000円
*賛助会費還元金(H29年度実績564,000円×15%)	310,200円
*江ヶ崎町内会よりの助成金	200,000円

#### ⑥ 活動の拠点は、どこ？

江ヶ崎町公会堂、新鶴見小コミハウス、新鶴見ホーム地域交流室が主な活動の場です。

#### ⑦ 鶴見区社協とのかかわりは？

区社協からは、江ヶ崎社協の活動がより展開しやすいように、次のようなバックアップをいただいています。

- ① 資金の補助→市・区社協の補助金、賛助会費の還元など、事業に必要な資金の補助
- ② 情報の提供→様々な制度や地区社協に必要な情報
- ③ 地区の連携→各地区同士の連携を図ること など

〈地域包括支援センターより〉

### 今年も江ヶ崎地区社協のみなさんと認知症の講座を行いました！



毎年この時期に『認知症サポーター養成講座』を開催していますが、今年度は趣向を変えて「認知症予防スリーA講座」を開催しました。3月15日(金)の午後、新鶴見ホームの地域交流室に集まって、講師の先生等も含め総勢28名でスリーAのプログラムを体験しました。

まずは、みんなで輪になって！

スリーAは「あかるく・頭を使って・あきらめない」を合言葉に全国に広まっている認知症予防のプログラムです。それぞれの頭文字を取ってスリーAと呼ばれています。スリーAでは認知症予防を楽しく、ゲーム感覚で行います。みんなと一緒に楽しい時間を過ごすことは、認知症の予防だけでなく、年を重ねることによる不安や寂しさも和らげてくれます。



さまざまなゲームを行う目的は、ゲームを通して他者とふれあい、交流することです。ポイントは『優しさのシャワー』といって、お隣同士で失敗しないサポート(上手くいくように手助けする)をすることや、「失敗しても大丈夫」とお互いを認めてあげることです。そのことで、明るく前向きな気持ちになることができます。

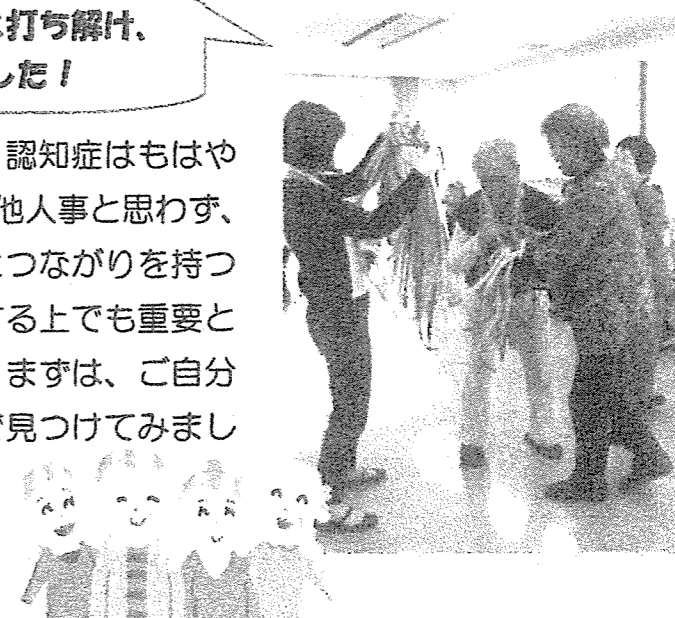
できなくても大丈夫！  
とりあえず、みんなで拍手～

はじめは緊張していたみなさんも、だんだんと打ち解け、最後のジャンケン大会は大いに盛り上がりました！

高齢者人口の増加や平均寿命の伸長により、認知症はもはやめずらしい病気ではなくなりました。認知症を他人事と思わず、地域で支えあうことが大切です。また、地域とつながりを持つことや、楽しみを作ることは、認知症を予防する上でも重要となります。スリーAはその1つの選択肢です。まずは、ご自分なりの「つながり」や「楽しみ」を生活の中で見つけてみましょう！

矢向地域ケアプラザ 地域包括支援センター

045-573-0020





## 架け替え工事が始まった 「末吉橋」のはなし

鴨志田 正晴

末吉橋は、鶴見川に架かり、横浜市と川崎市をつないでいます。末吉橋より下流は兩岸とも横浜市鶴見区ですが、上流の鷹野大橋までの左岸は川崎市幸区(小倉・南加瀬)です。

幸区HPに「鶴見川はかつて、米や農産物 下肥などを運搬する船が往来していて、末吉橋のたもとは、昭和15・6年頃まで「橋場」という屋号の船着き場がありました。ここから東京方面への舟便は、東京湾を經由して秋葉原の万世橋まで運行していました」と記されています。

従来の木製の橋が、現在のコンクリート橋となったのは55年前です。昭和25年に下末吉から小倉に抜ける上り線(鶴見川上流側)が造られ、14年後の昭和39年に小倉から下末吉に抜ける下り線(鶴見川下流側)が付足されて、総幅員13.3mの現在の「末吉橋」となりました。

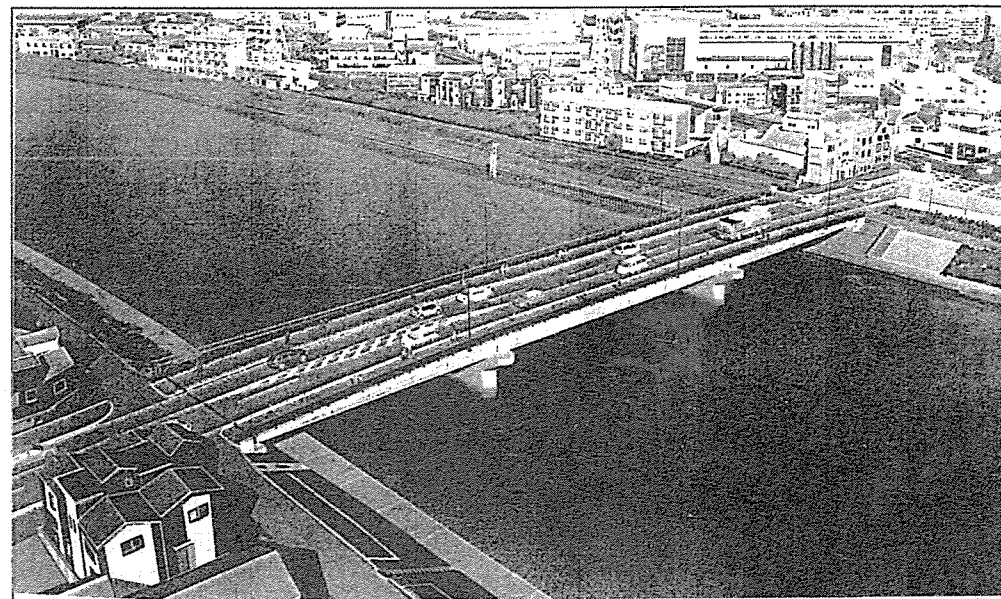
この橋は、東名高速道路に繋がる尻手黒川道路と環状2号線を結ぶ重要な橋であり、第一次緊急輸送路です。しかし、築55年で老朽化は進み、通行する車両の大型化、歩道・車道との幅が狭小であるために起きる交通渋滞・歩行者の通行への支障などの観点から、対策が必要となってきました。

平成24年には、江ヶ崎・矢向一丁目両町内会は、歩行者の安全向上と渋滞解消のため、末吉橋の架け替えを求める要望書を提出しました。

平成27年2月、横浜市と川崎市は末吉橋の架け替えについて、共同事業として基本協定を締結したとの発表がありました。なお、この事業は横浜市が主体で行い、事業費は二分の一ずつ負担することとなりました。

なお、工事は片車線ずつ仮橋を造り車線を保ちながら、周辺道路に影響の出ない形で進めていく工事方法がとられるようです。

工事期間は、2015年から2028年で、概算費用60.1億円が見込まれています。



(完成イメージ図 平成31年3月現在)

### ◇ 架け替え後は……

- ① 耐震性を高めることで大地震が発生しても、緊急輸送路としての機能を確保します。
- ② 歩道を広げることで、安全で快適に利用できるようになります。
- ③ 右折レーンの延長、交差点の改良などにより慢性的な渋滞を減らします。
- ④ 橋脚の本数を少なくすることで、大雨の時でも鶴見川の流れをスムーズにさせます。

### ◇ 新旧橋梁の比較

新しい橋		現在の橋	
108.00m	橋の長さ	107.86m	
18.8m (路肩・地幅含む)	幅員	13.3m (中央帯・路肩・地幅含む)	
車道 3.25m×2 +3m×1 (右折レーン)	幅員構成	車道 4.5m×2	
歩道 3.25m×2		歩道 1.5m×2	

◇参考資料：末吉橋 個別施設計画(架替事業)

# 江ヶ崎この人



おくやま あき  
奥山 アキさん

## プロフィール

生まれ：昭和19年(1944)11月2日 満74歳申(さる)年  
新潟県中魚沼郡水口沢(現 十日町市水口沢)  
6人兄弟(4男2女)の4番目で次女  
家族：夫、(子)娘2人(孫)男2人  
趣味：料理、(むかしは)カラオケ  
講演会 発表会 などを「見たり聞いたり」が好き  
嗜好：(食べ物)嫌いなものは、ありません。  
トマトが大好き。毎日食べています。

## 一新潟県 十日町市の生まれ

新潟県の南部(中越地方)信濃川中流域にある十日町市がふるさとです。日本有数の豪雪地帯で、絹織物と魚沼コシヒカリの産地としても知られています。この地で16年間を過ごしました。

生家は農家でしたが、農作業は嫌いでした。ミミズはもちろんゲジゲジや青虫など、虫が怖いという単純な理由からでした。

学校では、目立たない普通の子でした。好きな教科は理科、家庭科で、嫌いなのは算数、体育はまあまあでしたね。雪国ですから、スキーやスケートの

授業がありました。

卒業して、早く働きたかったとの思いもあって、地元の紡績工場に就職しました。十日町は、古くから雪で閉ざされている冬の副業として織物業がさかんでした。中学を終えて、この仕事に就くのが当たり前とっていました。

## 一昭和36年 横浜 鶴見へ

10歳も上の姉は、私とは対照的な行動派でした。既に横浜に嫁いでいた姉に、私は憧れの気持ちを持っていました。昭和36年、正月に帰省していた姉にくっついて、横浜に来てしまいました。内向的な自分が、思ったことをすぐ行動に移したのは、この時が初めてでした。

姉夫婦の住む総持寺前の家から、姉の伝手で就職した東京大森の「日立ランプ」に通勤しました。

## 一昭和56年 江ヶ崎(さくら地区)へ

昭和42年に結婚。同郷の方の紹介で、見合い結婚でした。主人は秋田県生まれの建設業でした。職人気質の 律儀で誠実で正直な人だと思ったその時の印象は、今も少しも変わりません。

昭和46年矢向一丁目に移り、昭和56年、江ヶ崎の現在地(さくら地区)に来ました。多くのみなさんに支えられて はや38年になります。

平成6年、江ヶ崎に初めて誕生したボランティアグループ「いちりんの会」の一員に加えてもらいました。いまでも続けている「ひとり暮らし高齢者の食事会」は、この時がスタートでした。

その後、お花の教室や、フラダンスに誘われて楽しい時間が増えました。

私は、先頭に立って音頭をとることはできないけれど、側面からお手伝いをするのが好きです。

始まったばかりの江ヶ崎社協の「子育て広場」で出会った未就学児が、その後、特別支援学校へ入学生スクールのバスで登下校されることになりました。車椅子が手放せないお子さんですが、自宅からバス

停までは自立での通学です。そこで登校時のお世話を引き受けることにしました。土日を除く毎朝の、約1時間を12年間続けました。

そのお子さんは この春、小・中・高の課程を終え、望んでいた障害者支援施設「希望」への入所が決まりました。心の底からよかったと思っています。

平成20年 開所間もない「希望」にパートとして勤めることになりました。主人が倒れてリハビリすることになり、私も何かしなければとの強い思いがあったからです。

「希望」での利用者さんは、年齢や障害の程度を基準に、各ユニットに分かれて暮らしています。

私は 重症の女性のユニットが担当でした。この仕事は、自分の性格にあった天職だと思えるくらい充実した時間でした。70歳定年制でしたが1年間の延長を頂き、7年間を過ごさせてもらいました。

利用者さんも、職員さんも、みなさん 私の子どもや孫の世代です。大変貴重な経験を積ませてもらったと感謝しています。

長い間、調理を担当をしていた「長寿を祝う集い」は、去年から「お客さん」の席に着かせてもらっています。「子育て」「孫育て」が無事すんだいま、これから何をしましょうか。やはり 里親になったネコが生きがいでしょうか。いま一番の至福の時は、愛ネコ「ちゃこ」との時間です。

愛ネコ「ちゃこ」は、飼い主のいない猫との共生を目指す「地域猫の活動」に、地道に取り組んでこられた方からの、素敵な贈り物なのです。

## インタビューを終えて

平成23年、奥山さんは鶴見区社協より「介護功労者」として 感謝状が贈られました。

「私が、頂くなんてとんでもない。贈呈に相応しい方が、他にたくさんおいででしように」と固辞されたのですが、「地味で地道な、息の長い活動こそ 貴重です」とお話し、やっと納得して頂いたことを思い出します。推薦者のひとりとして、ほんとはよかったですと思っています。(鴨志田 正晴さん 談)